

いいもの成らせるさくらんぼ便り

Vol. 1 去年と同じ過ちを繰り返さない！果実を確実に成らせよう。

早期落葉した樹で、「紅秀峰」を中心に小花の枯死が多い！

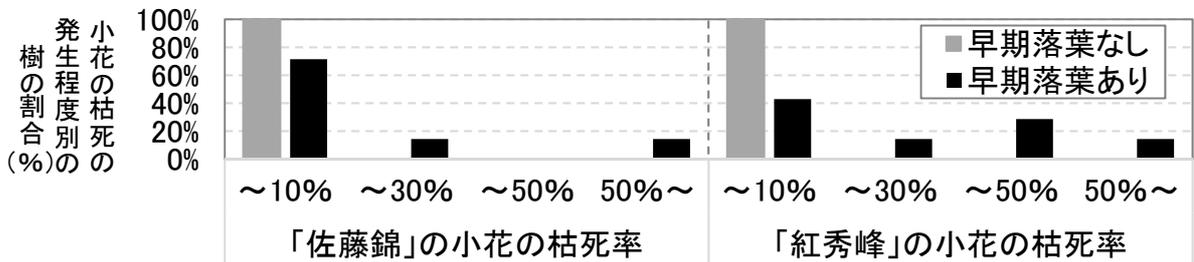
- ・近年、「果実が成り過ぎるリスク」より、「果実が成らないリスク」の方が大きくなっています
- ・いつもどおりに摘芽すると、去年のように着果不足となる可能性大！
- ・早期落葉や花芽の小花の枯死状況を勘案し、摘芽する園地や樹、程度を決めましょう（場合によっては摘芽を控える）

1 凍害による小花の枯死の発生状況(県内8園地調査)

◆「佐藤錦」：平均 5.4%、「紅秀峰」：平均 12.6%

早期落葉樹では枯死が多発！！

- ・凍害による小花の枯死の発生は、園地間差が大きい傾向
- ・早期落葉が発生した園地では、枯死率が50%を上回る樹もみられる



2 双子花の発生状況(県内8園地調査)

◆「佐藤錦」：平均 1.7%、「紅秀峰」：平均 2.6%

日当たりの良い樹上部では双子花が多い！！

- ・双子花の発生は、全般に前年より少ない傾向である
- ・「紅秀峰」の日当たりの良い樹上部では20%程度発生がみられる樹もあるため注意

3 今後の対応 ～ 着果最優先！！ ～

まずは自園地の花芽の小花の枯死状況を確認しよう！

(1) 枯死の発生が甚大な樹 (早期落葉が発生した樹)

☞ 令和7年産は摘芽の実施をやめ、着果後に摘果で対応する

(2) 枯死の発生が軽微な樹

☞ 双子果対策をかねて、例年よりも花芽の数を「1芽」以上多く残す

■「紅秀峰」の摘芽程度の例

	目通り	樹上部
本年	3～4芽	2～3芽
例年	2～3芽	1～2芽

+1芽



凍霜害対策のため、下向きの花芽を1芽多く残した

※「紅秀峰」や上向きの花束状短果枝・新梢基部は、花芽を多めに残す

☞ 摘芽を行う場合は、実施時期を遅らせる

【早期落葉が発生した園地の対応】

着果が不足する可能性が大きいので、摘芽を控え、人工受粉を徹底し、果実が結実してから摘果で対応する（着果不足は高温障害果の発生を助長する）



摘芽する場合は、焦らずに、凍害の有無（赤丸の花芽：凍害あり）がはっきりしてから行う